

編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
103-71	高等学校	国語科	文学国語	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15 三省堂	文国 702	精選 文学国語		

1. 編修の基本方針

言葉を学ぶ。言葉で生きる。

主体的に学ぶ

学び方を習得し、見通しをもって主体的に活用しながら、学びに向かう力を高めます。

対話をとおして学ぶ

他者との交流・共有をとおして、多様な価値観が共生する社会で生きる力を高めます。

深く学ぶ

知識・技能と思考力・判断力・表現力を確実に育成し、言語文化の担い手を育てます。

この教科書は、教育基本法に掲げられた目標及び学習指導要領の目標を達成するために、以下に掲げる方針を基軸として編修しました。その際、選択科目としての性格や特色を意識するとともに、共通必修科目において育成された能力を基盤として、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の関連する内容を発展させ、育成を目指す資質・能力を確かめながら、主体的に、対話をとおして、深く学ぶことができるよう、教材の内容、配列、課題の設定を工夫しました。

- ① 多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。

国際的な高度情報化社会の到来とともに人や物の交流が盛んになる一方、国内では人口構成や産業構造の変化による社会や生活における意識の多様化など、さまざまな問題が起こっています。多様な価値観との共存が求められる現代社会においては、こうした現実に対処するために、さまざまなものの見方、考え方、感じ方を知り、物事を大局的・多角的に捉え、的確に判断するバランスのとれた能力

が必要になります。これからのグローバル社会に対応し持続可能な社会の担い手となる人材の育成に向けて、この教科書では特に、理解の質を高め確かな学力を育成することに意を尽くしました。また、思考力・判断力・表現力等を有機的に関連づけた教材と学習課題を効果的に配置するよう心がけました。さらに、他者の話や文章における情報や主張を的確に切り分けつつ理解し、それに対する自己の主張を論理的に展開させる課題を配置することで、国際社会を生きるための総合的な国語力と個の自覚を育成することを目指しました。

② 自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくみ、国語の力を育成する。

高度情報化社会の到来やA I（人工知能）の進展などに伴い、現代社会を自覚的に生きるには、氾濫する情報を適切に収集・整理していく能力が求められます。そのことが、他者を尊重しつつ、自ら学び自ら考え主体的に生きる力の基本になります。そうした観点から、この教科書では、特に言葉を通して現実をみつめます。他者を理解しつつ、主体的に考え、伝え合う言語活動を通して、生徒一人一人の国語の力を育成することを第一のねらいとしました。これは生涯にわたって日本の言語文化に親しみ、その担い手として、生きて行くための基本的な能力の育成につながります。複雑化する現代社会に対応する人材を育成するために、国語教育の受け持つ領域は、もともと基本的かつ広範なものです。そのための教材の厳選・適正な学習活動の展開には細心の配慮をしました。

③ 伝え合う力を確かなものにするため、表現学習を重視し、理解学習と総合化した体系的な国語教育を目指す。

伝え合うという行為は、相手を理解することであると同時に、自己を表現することでもあります。生徒たちの言語生活を真に生き生きとしたものにし、伝え合う力を確かなものにしてゆくためには、表現のための学習と理解のための学習とが有機的に配置され、総合的に位置づけられる必要があります。そのため、この教科書では、表現と理解を結びつけた独自の課題（＝学習の場）を設定することで、生徒たちの主体的な学習活動を促し、言語能力を総合的に高められるよう配慮しました。また、内向的な学びに向かいがちな学習のあり方に対する反省をふまえ、自分の意見や考えの積極的な発信や他者との協働的な活動をとおして、開かれた個性、広範な教養が育まれることを目指しました。

④ 言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。

社会生活に必要とされる知識や技能を身につけるために、日本の言語文化に対する理解と認識を高めてゆくことが求められます。そのため、生徒の興味関心を引き出し、生徒の学習意欲を喚起できる、豊かな価値を有する内容になるよう心がけました。また、言語の教育という点を重視し、国語に関する知識や言語事項の学習にも留意しました。こうした学びが、生徒に言語文化の担い手としての自覚を喚起させ、豊かな言語活動を通して社会に関わろうとする態度を養います。学習にあたっては、学習目標の明示、課題、活動、コラムを経て、学習の振り返りによる自己確認に至るまで、個々の教材開発による、一貫した学習計画が達成できるよう配慮しました。さらに、日本の言語文化を特徴的にいるどる教材をバランスよく配置するとともに、必要に応じて古典教材と近代の作品とを関連させるなど、発展的に考えさせる学習課題の設定についても格別の配慮をしました。

2. 対照表

	図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第一部	一 小説の言葉・詩の言葉 ——文学国語へのいざない	小説や詩の言葉にふれることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	11～20
	二 小説（一）	寓意性のある作品の読み比べや書き換えをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）	21～44
	三 詩歌	詩歌の諸作品にふれ、短歌の創作を行うことで作品に対してより深く理解する機会をとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。	45～64
	四 小説（二）	象徴性に着目して作品を読むことをとおして、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	65～96
	五 翻案	古典作品の翻案の読解と実作をとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	97～108
	六 戯曲の言葉	舞台上で演じられるための作品の言葉にふれることをとおして、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	109～136
	七 小説（三）	文学作品に描かれた時代性や言葉のもつ自由なはたらきなどにふれることをとおして、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	137～182
	八 評論	文学作品を多角的に分析する視点の獲得をとおして、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	183～212

第二部	一 読むこと・書くこと・語ること ——文学国語の広がり	文学作品と自己との関わりや体験を述べた文章にふれることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	213～228
	二 小説（一）	人間の内面や社会のあり方について描かれた作品を読むことをとおして、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	229～248
	三 詩歌	詩歌の諸作品にふれ、言葉と感情との関係などを考えることで作品への理解を深める機会をとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。	249～268
	四 文学の共同制作	連詩・連句のもつ意義について学び、実作することをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことを目指した（第二号）。	269～286
	五 小説（二）	戦争体験について書かれた文章を読むことをとおして、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した（第四号）。	287～326
	六 翻訳の言葉	「日本語→外国語」「外国語→日本語」へと翻訳された作品の読解と原典との比較などをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	327～348
	七 小説（三）	文学作品に描かれた時代性や人間の内面などにふれることをとおして、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	349～394
	八 評論	日本の言語と文化についてそれぞれの視点から分析した文章を読むことをとおして、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	395～414

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

全ての学習者が学習しやすい紙面づくり

- ❖ 特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの専門家の知見を参考に、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい教科書となるよう工夫しました。
- ❖ 教材で使用している文字にUDフォントを使用し、読み誤りなどが生じにくいよう配慮しました。
- ❖ 挿絵や図版を適所に配置することで、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えることを目指しました。

カラーユニバーサルデザイン（CUD）への対応

- ❖ 色覚の特性を考慮し、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫しました。
- ❖ 識別しにくい配色は避け、色だけの違いに頼らず、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けました。
- ❖ 色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるように配慮しました。

環境にやさしい教科書

- ❖ 環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用しています
- ❖ 植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用しています。

その他の配慮事項

- ❖ 製本は堅牢で、十分な耐久性を備えています。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
103-71	高等学校	国語科	文学国語	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15 三省堂	文国 702	精選 文学国語		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 教材選定と作成の基本方針

1 日常生活における言語活動の活発化を目指し、基礎、基本の充実を目指した教材

教材の選定, 教材化に当たっては, 高等学校の必修教科目である「現代の国語」「言語文化」における学習の成果をふまえ, 高校生として望ましい国語の力を身につけ, 日常生活における言語活動を活発化できるよう, 発達段階にふさわしい基本的なものを選びました。また, 生徒たちが自らの思考力, 判断力, 表現力を高め, さまざまな角度から問題を取り上げ, 人生, 社会, 言語について思いを深めることができる教材を精選しました。

2 感性豊かに人間の姿や心情を描いた, 想像力を刺激する魅力あふれる教材

人間の普遍的な生き方や心情を情緒豊かに表現した作品を教材化することで, 日本を中心とした文学の諸相を幅広く取り上げ, さまざまな角度から文学の諸側面にふれることができるよう配慮しました。特に, 文学による自己への影響を日常の言語活動に即して把握できるよう, 創作活動をとおして理解を深めたり, 評論の言葉を用いて過去の読書体験を振り返ったりする学習活動を設けたほか, 映像や翻訳, 歌詞などとのつながりにもふれられるよう配慮しました。

3 読書に親しみ, 知識と教養を身につけることのできる教材

幅広い知識と教養を身につけ, 真理を求める態度を養うため, 読書に親しみ, その意義と効用を考える契機となるような作品を選び, 教材化を図りました。

4 バランスよく配置された, 定評ある教材と現代的话题の教材

教材の選定は, 従来から教材化されて定評のある作品を機軸としつつ, 特に近代以降の文章では, 現代的な話題や視点について考えることのできる作品や文章を教材化して, 生徒の興味を喚起できるように配置しました。また, 日常生活において適切に表現する能力を育成し, 伝え合う力を高め, 必要な言語能力を確実に身につけられる教材を精選しました。

(2) 構成と配列の基本方針

文学国語という科目の性格をふまえ, 一つ一つの教材の価値を大切に, 言語活動をとおした体系的な知識の習得と生徒の主体的・継続的な学習の流れを保障するため, この教科書では次のような構成で教材の配列をしました。

1 全体の構成

学習の流れを重視し, 文種で分けた単元構成としました。その上で, 各部の冒頭に「小説の言葉・詩の言葉——文学国語へのいざない」「読むこと・書くこと・語ること——文学国語の広がり」を置いて科目としての入口を示し, 末尾には「評論」を置くことで時代・文種を越えた「文学」全体の来し方行く末までを見わたす単元として位置づけました。

2 「言葉の特徴や使い方」「我が国の言語文化」

言葉の特徴や使い方, 我が国の言語文化についての生徒の関心を広げ, 知識及び技能の着実な理解を図るために, さまざまな工夫を凝らしました。

それぞれの教材に「語句」「漢字」を設け, 語彙・表現・漢字について取り立てることで, 文化の継承, 発展, 創造を支える言葉の働きや, 我が国の言語文化に特徴的な表現について興味・関心を持てるようにしました。また, 「学びを広げる」では, 言葉に着目した活動を通して我が国の言語文化に特徴的な表現の技法を学ぶだけでなく, それを文章の中で使うなど, 総合的な国語の運用能力の向上を図るため, 特に配慮してあります。

3 「書くこと」

短歌の創作、小説の書き換え、古典作品の翻案、連句の共同制作といった表現活動を設定しました。実作の手順や例を示すことで、自分の知識や体験の中から適切な題材を決定し、表現したいことが明確になるように配慮するとともに、効果的に文字を書く機会となることを企図しています。また、作品の形式についての学習を先に行うことで、自分の体験や思いが効果的に伝わるような表現の工夫を自らの実作に活かし、言語文化の担い手としての自覚をもてるようにしました。

4 「読むこと」

教材の配列は、学習の段階を考慮しつつ、興味関心を継続的に喚起し得る変化に富んだものとなるよう、特に配慮しました。生徒の発達段階に留意しつつ、生徒自らが何らかの言葉を発したくなるような教材を精選しました。また、「文学を読むために」「広がる読書」「読書の扉」などで、文学への興味と関心をもつことができるようにしました。

また、「学びを広げる」を適宜配置し、翻案や読み比べ、詩の朗読会といった活動を設定しました。作品についての理解を深めつつ、多角的な視点を持ち、他のジャンルに目を向ける契機となることを企図しています。「学びを広げる」やコラムにおいては、書き下し文や現代語訳などを利用することで生徒の理解を助け、言語文化への興味関心が深まるようにしました。

5 学習指導についての配慮

- ①課題……各教材の末尾に設け、内容を理解するための項目を、問いや作業の示唆の形で適宜盛り込みました。
- ②学びを広げる……「課題」を発展させ、その理解を深め発展させる活動として、体系的かつ協働的に深め、広げられるような課題を適宜設けました。
- ③漢字……常用漢字の習得のために、教材中の注意すべき漢字を選び掲載しました。
- ④脚注……生徒の学力を考慮し、自発的学習を促すためにも、生徒が容易に調べられるものや文脈で理解できるものは除き、必要最小限のものにとどめつつ、読みの抵抗を少なくするために、適宜平明かつ簡潔な解説をほどこしました。
- ⑤語句……教材の中から語彙を広げる上で注意すべき語句や慣用句を選び出し、本文中に印を付して、見開きごとにまとめて脚注欄に示しました。生徒が習得し、日常の使用に利することが望ましいものを、生徒の語彙力を十分に考慮して選んであります。
- ⑥脚問……丸番号を用いて、脚注欄に据えました。「脚問」は「課題」と有機的に関連させてありますが、読解過程の部分的な問題点に気づかせ、それを全体へと展開させていく節目と位置づけました。これは学習上の補助的なもので、学習者の主体性や問題意識の芽を摘み取ることのないように配慮しました。
- ⑦二次元コード……各単元の扉など、必要な場所に適宜二次元コードを付し、リンク先に学習の参考となる情報を掲載しました。
- ⑧読書の扉……単元で取りあげた教材や話題について生徒が探究的な学びに向かえるよう、関連のある書籍を選定し、書名・著者名・書影を掲げ簡便な内容紹介を付しました。

6 用字・用語・表記について

- ①送り仮名は、「送り仮名の付け方」（昭和四十八年六月十八日付内閣告示第二号）に定められている「本則」および「例外」によりました。
- ②常用漢字以外の漢字については、原則として教材本文ごとの初出に振り仮名をつけました。
- ③常用漢字であっても、「常用漢字表」以外の音訓を使用している場合は、教材初出で振り仮名をつけました。また、常用漢字表内の音訓でも固有名詞など読みにくいもの、迷いやすいものなどには教材初出で振り仮名をつけました。
- ④仮名遣いは現代仮名遣いとし、原典が文語体の文章、振り仮名についても同様としました。
- ⑤詩歌教材・小説教材など形象性の強い作品の表記は、原則として原典および原作者の求める表記に従いました。また古典教材については、生徒の発達段階を考慮して用字・句読点などに適切な工夫を凝らしました。
- ⑥外国地名・外来語などのカタカナ表記については、「外来語の表記」（平成三年六月二十八日付内閣告示第二号）に従いました。

7 写真・挿絵・図版などについて

教材の読解や言語活動の補助的資料として、鮮明な写真、要を得た挿絵、見やすい図版などを必要に応じて掲載しました。

8 「資料編」について

学習者が主体的に学びを広げていくために参考となる、以下の資料を収録しました。

「読書の扉」「文学史年表」……それぞれ、活用によって多様な学びの可能性がひらかれ、学習者の言語活動が豊かなものとなることを期待されます。

2. 対照表

図書の構成・内容（教材名）		学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数	
第一部	一 小説の言葉・詩の言葉 ——文学国語へのいざなひ	夜中の汽笛について、 あるいは物語の効用について 村上春樹	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ ●読むこと ア・カ・キ	12～15	5
		詩はいつでも近いところにある 蜂飼耳		16～19	
	二 小説（一）	山月記 中島敦	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ ●読むこと ア・イ・ウ・エ・オ・カ・キ	22～34	7
		少年という名前のメカ 松田青子		35～42	
		[学びを広げる] 小説を書き換える	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ ●書くこと イ・ウ・エ ☆言語活動例 イ	43	7
	三 詩歌	今日 谷川俊太郎	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ ●読むこと ア・イ・ウ・エ・オ	46～54	6
		わたしを束ねないで 新川和江			
		帰途 田村隆一		55～58	
		木に花咲き——短歌十五首			
	[学びを広げる] 短歌を創作する 麦わら帽子のへこみ 穂村弘	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ ●書くこと ア・エ ☆言語活動例 ア	59～63	8	
	四 小説（二）	ひよこの眼 山田詠美	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ ●読むこと ア・イ・ウ・エ・オ ☆言語活動例 ア	66～81	7
		神様 川上弘美		82～91	
		[学びを広げる] 書評 今はもうないものの光 堀江敏幸		92～95	
	五 翻案	ありとぎりぎりす 佐野洋子 [参考] セミとアリ イソップ	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ ●読むこと ア・イ・ウ・エ・オ	98～103	7
		[学びを広げる] 翻案作品をつくる 姨捨（大和物語）	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ ●書くこと ウ・エ ☆言語活動例 ウ	104～106	7
	六 戯曲の言葉	戯曲の中の「対話」 対談 井上ひさし／平田オリザ [参考] 『東京ノート』平田オリザより	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ ●読むこと ア・イ・ウ・エ・オ ☆言語活動例 ウ	110～118	7
		戯曲 書く女（抄） 永井愛		119～135	
		[学びを広げる] 戯曲		135	

	七 小説 (三)	ころろ 夏目漱石	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ	138～173	9
		捨てない女 多和田葉子	●読むこと ア・カ・キ ☆言語活動例 エ	174～179	
		[学びを広げる] 小説の表現／映画の表現		180～181	
	八 評論	評論 文学の仕事 加藤周一	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ	184～192	7
お砂糖とスパイスと爆発的な何か 北村紗衣	●読むこと ア・カ・キ ☆言語活動例 イ	193～202			
小説はどう読めばいいのか？ ——太宰治『斜陽』の語り口 阿部公彦		203～211			
[学びを広げる] 批評		212			
第二部	一 こと——読むこと・書くこと・語る こと——文学言語の広がり	本を読むと路に迷う 朝吹真理子	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ	214～217	6
		想像し物語ること 大江健三郎	●読むこと ア・カ・キ	218～228	
	二 小説 (一)	ベル・エポック 絲山秋子	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ	230～239	7
		鞆 安部公房	●読むこと ア・イ・ウ・エ・オ・カ・キ ☆言語活動例 ア	240～246	
		[学びを広げる] 象徴		247	
	三 詩歌	永訣の朝 宮沢賢治	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ	250～259	7
		ギリシア的抒情詩 西脇順三郎	●読むこと ア・イ・ウ・エ・オ ☆言語活動例 オ		
		のちのおもひに 立原道造			
		渡り鳥——俳句十五句			
		[学びを広げる] アンソロジー 宇多田ヒカル論——世界の無限と交わる歌 杉田俊介		260～263	
			264～267		
四 文学の共同制作	連詩の愉しみ 大岡信	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ	270～278	7	
	ヤングの連句——半歌仙『赤城おろし』の巻 宇咲冬男	●読むこと ア・カ・キ	279～283		
	[学びを広げる] 連詩をつくる	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ ●書くこと ア・イ・エ ☆言語活動例 エ	284～285	8	
五 小説 (二)	靴の話 大岡昇平	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 ア・イ	288～298	7	
	夏の花 原民喜	●読むこと ア・イ・ウ・エ・オ・カ・キ ☆言語活動例 カ	299～318		
	[学びを広げる] 戦争の記憶 死者の声を運ぶ小舟 小川洋子		319～324		

六 翻訳の言葉	翻訳の言葉 『雪国』の謎——夜の底とは何か 山本史郎	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 アイ ●読むこと ア・カ・キ ☆言語活動例 カ	328～335	7
	涙の贈り物 レベッカ・ブラウン／柴田元幸訳		336～345	
	[学びを広げる] 翻訳 翻訳の創造性		346～347	
七 小説(三)	檸檬 梶井基次郎	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 アイ ●読むこと ア・イ・ウ・エ・オ・カ・キ ☆言語活動例 カ	350～358	7
	舞姫 森鷗外		359～392	
	[学びを広げる] 時代背景		393	
八 評論	陰翳礼讃 谷崎潤一郎	◆言葉の特徴や使い方 ア・イ・ウ・エ ◆我が国の言語文化 アイ ●読むこと ア・イ・ウ・エ・オ・カ・キ ☆言語活動例 ア	396～401	7
	無常ということ 小林秀雄		402～406	
	[学びを広げる] 文体 文体の持つ力 安藤宏		407～414	
文学を読むために	語り手／象徴と寓話／筋（プロット）／ 台詞と科白／回想と手記／詩と詞／描写	◆我が国の言語文化 ア	44,64,108, 136,182, 268,326	適宜
広がる読書	エッセイ／ミステリー／SF小説／ 翻訳小説／歴史と文学	◆我が国の言語文化 イ	96,248, 286,348, 394	適宜
資料編	読書の扉	◆我が国の言語文化 イ	416～423	適宜
	文学史年表		424～431	